

## 中干しは遅れないように行いましょう

### 1. 生育状況と水管理

4月から5月は気温が大きく変動しました。5月上旬までに移植した「コシヒカリ」や「みずかがみ」等の早生品種の生育は、一部のほ場で還元障害による生育停滞が見られます。

茎数はやや少なく、ほ場間差があり草丈はやや徒長気味です。

移植時期の早晩に関わらず、**浅水管理**を基本とし、足を踏み入れて気泡が発生するような還元障害が出ているところでは、分けつ促進のため軽い田干しを実施しましょう。



中干し開始適期の株張り程度(目安)

### 2. 中干しの実施

中干しは、軽くひび割れ、足跡がつく程度まで行い、地耐力を高めましょう。



中干しの程度(ひび割れと足跡)

#### ○中干し開始時期

4月下旬から5月上旬移植では6月10日頃、5月中旬移植は移植後1カ月を目安に開始しましょう。

#### 【中干し開始時期の株あたり茎数の目安】

栽植密度	50株/坪	60株/坪	70株/坪
コシヒカリ	20~21本	17~18本	14~15本
みずかがみ	—	16本	14本

#### ○溝切り

中干し後の水管理を容易に行うため、溝切りをしましょう。

溝切り前に田面を少し固めてから、再度浅水で溝を切ると崩れにくい溝を形成できます。

- 1) 溝切りは、1本/10a以上が基本です。収穫前に乾きにくいほ場や水稲跡に麦を栽培する場合は、溝の本数を増やしましょう。
- 2) 溝と尻水戸(排水口)を確実につなぎます。

#### ○置き苗の処分

置き苗はいもち病の発生源となります。すぐに処分しましょう。

